

学

童

保

育

って
なあに？

働いて安心、育てて安心
みんなで子育て「学童保育」



名古屋市学童保育連絡協議会

昼間のきょうだい 安心できる居場所

学童保育とは、昼間親が仕事などで家に
いない家庭(留守家庭といいます)の子ども
達が、放課後・学校休業日の時間を過
すための場所。親がわりの指導員や、兄姉
のような上級生たちと一緒に、安定した人間関係の中で
過ごす、生活の場です。

学校から「ただいま」と帰ってきて、家で過ごすのと同じように、おやつを食べたり、遊んだりします。そこで一緒に過ごす子ども達は、「**昼間の兄弟姉妹**」なのです。

◆高学年のトーチがカッコイイ

子どもの声

- ◆お兄さんお姉さんにいろいろ教えてもらえる。
- ◆友達と遊ぶのが大好き
- ◆いろんな人と遊ぶのが楽しい

保護者の声

- 少子化のこの時代に1～6年生までの幅広い
子どもたちの中ですごせるのはうれしい
■年下の子やまわりの子を思いやる気持ち
が身についた



学童保育所
は、ありのま
まの姿を受け
止めてくれる
仲間と指導員の
なかで子どもが過
す場所です。

大きな安心に包まれる心のよりどころです。

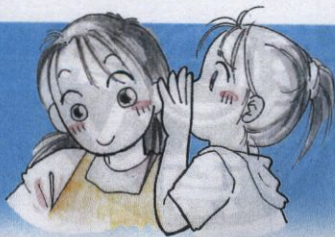
指導員の声

- 日々子どもの命と安全と健康を守っています。
- 親がいなくてもさびしい思いをしないように寄り添っています。
- 子どもの表情や様子の変化を気にかけています。
- 子どもたちの声を大切にしながら一緒に生活をつくっています。

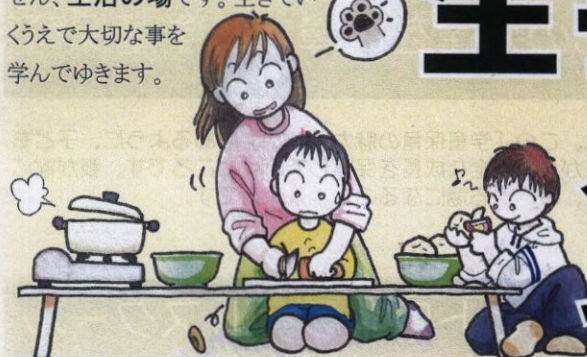
保護者の声

Q. 学童に預けて良かったと感じるのはどんなとき？

- 迎えに行った時に友達と楽しそうに笑って過ごしているわが子を見た時。
- 子どもが「また明日も学童に行きたい」と言う時。
- しょうがいのあるわが子が、自分らしくのびのびと過ごしているとき。
- 子どもが学校に行けない日に対応してもらって助かった。



学童保育所は遊びの場だけではなく、**生活の場**です。生きていくうえで大切な事を学んでゆきます。



保護者の声

- 社会性・生活力が身についた
 - たくましくなった
 - 家庭や学校では経験できない体験ができる
 - 班活動などで責任感・自主性が身についた
 - 学童で昼食やおやつ作りをするので、家での家事（特に炊事）は抵抗なく手伝ってくれる
 - 包丁やナイフが使えるようになった
 - 規則正しい生活のリズムができ、長期休暇の
時にも生活リズムが乱れない

子どもの声

Q. 何をしてるときが楽しい？

- ◆おやつを作ってみ
なで一緒に食べてい
るとき
- ◆お昼ごはんの手
伝いをしてると
き
- ◆キャンプ!



保護者の声

- 学童期の保育の専門家が、一生懸命子どもたちのことを考えてくれるのは心強い。
- 親が気づかない子どもの成長を指導員から伝えてもらえる。
- 今頃何してるんだろう？と心配することなく安心して働ける。子どもだけで留守番させるのは今の世の中不安です。

Q. 何をしているときが楽しい？

子どもの声

- ◆指導員とおしゃべりすること
- ◆近くの公園でみんなと指導員で遊ぶとき
- ◆学童からのお出かけ

親が仕事をしている小学生の子どもたちの放課後や学校休業日（土曜日・春休み・夏休み・冬休み・振替休日など年間100日以上）の生活を守る施設が学童保育です。

親に代わって子どもたちの生活を守る
のが指導員の仕事です。学童保育で子
どもたちが安心して生活しているから、親
も仕事を続けられるのです。

生きる力をつける

保護者の声

できる
ついた
家での家事
する

長期休暇の
よい

子どもの声

るときが楽し

を作ってみん
緒に食べてい
き
昼ごはんの手
いをしてると

キャンプ！

信頼で

命子どもたち
導員から伝え
ることなく安
番させるのは

子どもの声

ぶとき

ちの放課後
・冬休み・
守る施設が

指導員

共同の子育て

……子育ては1本のロープを編むような作業。太くなったり細くなったり、ちぎれそうになったり。でもそれは子どもにとっては命綱。綱が切れそうになったり編むのに疲れ果てた時、他の人の綱

を頼ったり編み方教わったり……子どもを中心に、学童保育では、保護者と指導員と一緒に子育てをしています。



保護者の声

- 働きながら子育てをする仲間ができ苦楽を共にする中で深く関わることができ、子育てが楽しくなった。
- 子育ての悩みを相談しあえる。
- 同じ学童保育所の親が、わが子のように叱ってくれるのを見たとき、「ありがたい」と思う。
- みんなで一緒に子どもの成長を見守るのがいい。

毎日・継続した指導員が安定した集団を見ている からこそ子どもの成長・発達を保障できる

- ☆学童保育では、毎日・継続した指導員が、安定した子ども集団をつくり、一人ひとりの子どもの変化や、集団の中での子どもの成長・発達をていねいに見ています。
- ☆子どもも、毎日家に帰宅する代わりに学童保育所に帰り、学校での頑張る姿から、自分の居場所での解放された姿に変わり、親や兄弟姉妹代わりの指導員に見守られながら、いつも同じ顔ぶれの、昼間の兄弟姉妹のような子ども集団の中で、大きく成長してゆきます。
- ☆このような学童保育の特徴は、全児童を対象として、日によって参加者が異なる事業では、実現することはきわめて困難です。

学童保育とトワイライトスクール 両事業の目的に沿った拡充を

- ☆目的の異なる両事業は、一体化するべきではありません。これらを一体化する事業である「トワイライトルーム」は、開始すべきではありません。
- ☆無理に一体化することによって、両事業の目的の達成がともに困難になり、かえってコストパフォーマンスも低下してしまうことは、放課後子どもプランモデル事業の検証でも明らかとなっています。
- ☆子どもの視点に立ち、それぞれの事業を、本来の目的を達成するために、質的充実と量的拡大をしてゆくこと、さらに、両事業が連携を取り合って子どもたちのためにより良い施策となるよう、改善を進めてゆくことこそが、今求められているのです。

子どもの発達を保障する学童保育

学童保育所は、この「学童保育の魅力①～⑤」にあるように、子どもに寄り添いながら、健全な成長を保障していくところです。我が家に帰るのと同様、毎日帰る場になるのが学童保育です。

学童保育とトワイライトスクール を一緒にはできない

- ☆名古屋市が実施しているトワイライトスクールは、遊びの場・学びの場を提供する事業です。トワイライトでは遊びたい子が集まり思い思いに遊んだり体験活動に参加します。本来行きたくなければ行かなくてもいいし、行ってもいつでも帰ることができる場所です。
- ☆何かあれば日中家に帰れる子どもと、保護者が日中家にいない子どもでは、気持ちのよりどころが全く違います。子どもは大人を必要とし、大人は子どもに寄り添う必要があるのです。専任の指導員が親代わりになってケアすることが必要になってきます。
- ☆子どもに関して専門的な知識と技能を持った大人と、専用の建物があれば、安心して保護者は働くことができます。
- ☆このような、目的も対象も異なる二つの事業は、一緒にすることはできません。

名古屋市学童保育連絡協議会